

イチジク品種「とよみつひめ」の栽培条件が降雨後の果実品質と商品性に及ぼす影響

○塚崎守啓・法村奈保子・馬場紀子・江嶋亜祐子

(福岡農総試)

【目的】

福岡県ではイチジク品種「とよみつひめ」(2004年品種登録)の販路拡大に向けて、京浜地域へのトラックによる低コスト輸送を推進している。

トラックによる輸送は航空機と比較して、長時間を要し、また、イチジクは日持ち性が悪く、特に、降雨後の果実はカビなどの腐敗が多く発生し、輸送や販売中に品質低下しやすいことが問題となっており、これまで以上の鮮度保持対策が求められている。そこで、イチジク品種「とよみつひめ」の栽培条件が降雨後の果実品質と商品性に及ぼす影響を調査した。

【材料および方法】

供試材料はイチジク品種「とよみつひめ」を用い、栽培条件は同一農家が隣接圃場で栽培している無加温ハウスおよび露地で比較した。サンプリングは降雨前日から数日間行い、果実水分、果実糖度、果実表面付着菌数および商品果率について調査した(2010年9月,2011年9月)。果実水分はアルミニウム箔法、果実糖度(Brix値)は果実糖度計(ATAGO社製Palette PR-101)、菌数の測定にはSTD培地およびPSD培地を用いた。また、京浜地域への輸送試験を行い、輸送手段(トラックおよび航空機)、栽培条件および光殺菌の有無の違いによる商品果率の比較を行った。

【結果および考察】

1. 降雨により果実水分が増加し、果実糖度は一時的に減少するが、減少割合は無加温ハウスで抑制された。また、果実糖度が降雨前の水準に回復するには数日を要した(図1)。
2. 無加温ハウスにおける果実表面付着菌数は降雨による影響が小さく、露地と比較して商品果率も安定して高かった(データ略)。
3. 京浜地域への実輸送試験の結果、無加温ハウ

スは露地と比較して腐敗果の発生率は少なく、商品果率が高かった。また、光殺菌をすることで品質よくトラック輸送することできた(表1)。

本研究は平成22年度産学官連携経営革新技術普及強化促進事業で実施した。

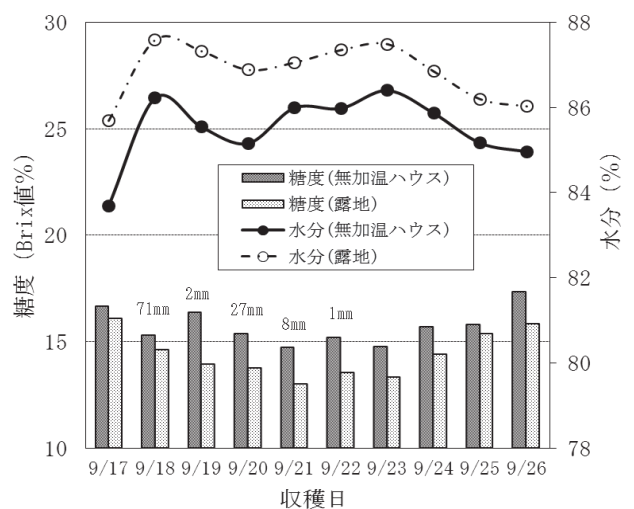


図1 降雨がイチジクの糖度および水分に及ぼす影響  
注) 棒グラフ上の数値は降水量を示す(降雨があった日のみ)。

表1 京浜地域へ輸送後のイチジクの輸送手段、栽培条件および光殺菌の有無の違いによる商品果率

栽培条件	トラック便		エア便	
	光殺菌 (%)	無処理 (%)	光殺菌 (%)	無処理 (%)
無加温ハウス	100.0	99.2	100.0	100.0
露地	99.2	88.2	100.0	96.4

- 注) 1. 商品果率は、腐敗果を除いた果実の割合。  
2. 調査は平成23年9月、24年9月(2回)に行いその平均値で示す。  
3. 光殺菌条件: 赤外線30秒+紫外線30秒  
4. 調査時期はトラック便: 収穫翌々日、エア便: 収穫翌日